

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協力会

公報 NO.51号

世界宣教になぜ燃えるのか

JOMA 会長 飯塚 俊雄

世界宣教にはこれを動かすいくつかの要因があります。まず、「全世界に出て行って、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」と命じられた主のご委任 (Commission) があります。魂を覚醒し、教会を活性化した幾多の宣教の勇者たちの生涯はこのみことばの上でなされて来ました。これが世界宣教の進軍ラップです。次に、自分だけが天の糧に養われているのに、福音を知らぬが故に霊の飢渴を抱えたまま永遠の暗黒に向かわざるを得ない人々への申し訳のなさ、熱い同情 (Compassion) があります。「助けてくれと叫ぶ声が心の奥に聞こえてくる」(聖歌 527) を抑えることができません。また、グローバル化した現代、地の果てと思われて来た地域も私たちの眼前にひらけて来ています。キリストのからだなる教会は生命共同体意識 (Community) を盛んにし、み父の御手の中にある人間家族に対して果たすべき責任を自覚しなければなりません。さらに、主と使徒たちによって開始されたこのわざを、私たちの時代に「世の終わりまで」継続 (Continuity)、達成する使命があります。そうでなければ、何のかんばせあって主の御前に立て



(会長・飯塚俊雄師は、左から3人目)

るでしょうか。以上、四つのCについて私たちは何の疑問もさしはさむことは許されません。これが、教会が全地に起されて来たパターンであり、私たち自身も世界宣教の僕だからです。

しかし、これら明白な要因と言えど世界宣教の究極の深みにはまだ触れていません。唯一の動機、それはキリストご自身です。世界宣教とキリスト信仰とは車の両輪です。言い換えれば、「神はこの世を愛する余り、キリスト (Christ) においてご自身のすべて、ご自身そのものを私に与えて下さった、そのことを私は

信じます。」と言うことは、「私の生涯は、主よ、あなたのみ心のままです。それが私の生きる原則です。」と言うのと何ら変わりありません。これが宣教の本質なのです。

つまり、世界宣教ということは神のご本質に根ざしているのです。人間の興味や都合で取捨選択できるものではないということです。一部の熱心な人だけがやればいいというものではなく、キリスト者であることの鮮明なしるしなのです。キリスト者になったということは宣教の旗の下に自分を登録したことです。「キリストにある、と言いながら、世界宣教のわざに関わらないことなどまったく不可能なこと」とジェームズ・ステュワート教授は断言しています。この一事こそ、キリストが自らの生と死を通して私たちに与えて下さった福音の何たるかを本当に把握しているかどうかの試金石なのです。世界宣教の土台はキリストご自身なのです。

「エッケ・ホモ」(この人を見よ)。■

旧コンゴ・ザイール

石田 勝子
(石田勝子を励ます会・CB-JAPAN)

石田勝子を励ます会はアフリカ赤道直下のコンゴ民主共和国(旧ザイール共和国)で医療伝道に従事している石田勝子宣教師を支援する団体である。

石田宣教師は、母教会の宣教師夫人の妹夫婦がザイールで宣教師をしていて、内乱で夫が殺害されたという手紙を読んでザイール伝道への使命が与えられた。数年間の準備の後、1974年にザイール

ルに向かい、以来現在まで10回に及ぶ宣教活動を続けている。

活動内容は、コンゴ民主共和国の北東端のニヤンクンデにある福音医療センター(CME)の病院検査技師、検査技師学校主任、看護学校教師を勤めるとともに、青少年伝道、特に、婦人たちへの伝道を行っている。

ニュースは：

<http://homepage2.nifty.com/tokyobible> に掲示してある。

<祈りの課題>

この地方は国境に接近し、首都から離れているために反政府軍の活動が盛んであり、加えて部族抗争が激しく、最近も死傷者を出す事件があった。そのため、住民、患者、医師、職員、学生などの間に動揺が多く、病院も学校も正常に機能していない。平和と安全のため、学校、病院の活動の平常化のため現地教会の信者の信仰の成熟のため、福音がさらに広められるため祈ってほしい。紛争のため、医薬品など物資が不足していて治療や検査、学びに支障が出ている。輸送も強奪、紛失の被害があり容易ではないので、祈ってほしい(「石田勝子を励ます会」・鈴木 昌)。

ケニア・テヌエック

(その一)

葛田 就子 (IGM医療宣教師)

東アフリカはケニアの山間部、テヌエックと言う所にある病院で、手術室の主任補佐という立場を与えられています。

数十年前に、一人の看護婦さんが一つの小さな小屋から始めた働きと聞いていますが、現在は450床程の規模の病院としての体裁を持ち、ケニアで学び、ケニアで資格をとった医師・看護婦の数も増えています。事務や管理部門でも、ケニ

ア人の専任スタッフが増えています。原則として職員はすべてクリスチャンです。

初期には物品全てが海外からの献品で、治療も無償でされていましたが、今は都心部の十分の一程度とはいえ、治療費を請求するようになっていきます。海外からの短期・長期の奉仕者は無償奉仕ですし、まだ海外からの献品にかなり頼っていますが、この治療費から職員の給料や国産の医療品購入費がまかなわれ、さらに本当に援助が必要な人の為の基金も準備されつつあります。年に一回程のペースで、病院のスタッフを中心にした伝道旅行も行われつつあります。

このような状況で一人のクリスチャンとしてまた看護婦としてどんな「凄い事」が出来るのかと考えると尻込みしてしまいますが「ロバのあご骨」にすぎない自分を握って勝利をとって下さる主にただ従うのみ、と日々の奉仕をしています。

具体的には、病院の手術室看護婦の仕事そのままの仕事をしています。先頭に立って「指導」というより、共に働きながら現在の主任の負担を軽くすることにより、ミッションホスピタルならではの質の良いケアを求めて来院される方々へ、御名の崇められるようなケアが実現されるためのゆとりが生まれるように、まだまだ言葉には不自由していますが、私を生かして下さる主を「見て」頂ける日々の歩みとなるように祈っています。

註：以下の文章は、編集者宛のものであるが、宣教地の状況を知る上で、役立つとの判断の下に、編集者が「註」として、挿入したものである。

落雷・電話線の不調・プロバイダー側の故障等々で、御迷惑をおかけしております。今週も月曜日から外部とのメールのやりとりが不可能となっておりますので、なんとか今日明日中に回復する事を願っております。もっとも原稿の御依頼は昨年うちに受信致しましたので、もっと早くから原稿が出来ていれば、ラインの

調子の良いうちに送信することも出来たわけですので、その点につきましてはお詫び申し上げます。

なお、昨年末から富沢宣教師のコンピューターの調子が悪く、メールの送受信が現在不可能となっておりますので、富沢宣教師の原稿も、このアドレスから別便で送信致します。

*上記の文章とともに送信するはずでしたが、遅くなって申し訳ありません。別便で先に送られた富沢宣教師の文章は受信されたでしょうか(2/2/2002)。週末はテヌエック、カボソン、マサイエリア、と移動しながら行く先でトライしていましたが送信出来ませんでした。本日テヌエックに戻りましたので、届く事を願いつつ。

湯田 就子 (テヌエック・ケニア)

(5/2/2002)

以上

ケニア・テヌエック

(その二)

富沢 香 (IGM医療宣教師)

東アフリカにあるケニアの首都ナイロビから、北西約260Kmの所にあるテヌエック病院。1936年に米国の看護婦によって始められ、1959年に初めての医師が派遣されたこのミッション病院で、私は12年間御奉仕させて頂いています。現在では、300ものベットが与えられ、これまでの看護学校と共に、指導病院として医師等のインターンを受け入れるまでに成長しています。私はこれまで内科、結核、小児科、外科の各病棟で主任として働きつつ、手術室補助、手術後回復室を新たに開き、時には婦長代理、薬剤管理、看護学生の臨床指導、そしてお掃除のおばさんとして用いて頂きながら、地域教会の教会学校のお手伝いをしてきました。第三期の現在は、正看護婦一期生が成長してリーダーシップが取れるようになってきています。そのような

中、私はICUで一看護婦として共に働きながら、若い主任を助けています。さらに、昨年の10月から、ICUと兼任でホームホスピスケアの責任を任されました。これは、経済的に困難な患者さんと、病院側の職員不足とを加味した試みです。医師によって余命1年以内と診断された患者さんが対象ですが、赤ちゃんからお年寄りの方まで、痛みの緩和と共に、霊的なサポートに重点をおいて進めています。12月までに、12人の患者さんのうち5人が、平安のうちに天に帰られました。この訪問看護を通じて、患者さんの家族などを含め、これまでに32人がイエス様に立ち帰ることができたことに、御名を崇めています。同じ片道70Kmでも、1時間20分程度で着く所もあれば、道の状態が悪いために2時間半から3時間かけて行く所もあります。御言葉によって進められた(エゼ47:1~9、イザ61:1~3、ダニ11:32、IIコリ2:14、Iサム23:16)この奉仕が、更に主によって押し進められることを祈り、励まされる毎日です。

ケニア・ケリチヨ

田辺寿雄・宣恵 (IGM宣教師)

私達はインマヌエル総合伝道団から派遣されていますが、現地では提携関係にあるワールドゴスペルミッション(World Gospel Mission)の宣教師として、アフリカ福音教会のために奉仕をしています。

2000年初めにケニアに赴任、6ヶ月の言語の学びの後、ケリチヨにあるケニアハイランズ聖書大学(Kenya Highlands Bible College)での奉仕を始めました。寿雄は主に聖書や神学関係の教科を、宣恵は教会史や一般教科、ピアノを教えています。この学校は教会のリーダーや牧

師を養成するために設立された学校で、キリスト教教育科、神学科(B.Th., B.C.E., 4年制)のコースがあるほか、教会奉仕者、牧師の資格修了(Diploma, 3年制)のコースもあります。生徒は現在84名です。その大部分は寮に入って生活しています。生徒はケニアのみならず、タンザニア、シエラレオーネ、コンゴ、ナイジェリア、エチオピア、ルワンダ、ウガンダなどからもきており、国際的です。

教鞭の傍ら、寿雄は学生監(Dean of Student)としても働いており、生徒の生活指導や週末の教会奉仕派遣の責任なども担当しています。キャンパス内にアフリカ福音教会の本部があるためにいろいろな会議も多く、宣恵はその食事や接待の責任ももっています。

また、学校の弟子訓練の一環として週に1回小グループとあって生徒9人と1時間一緒に聖書の学び、ゲーム、討論、交わりの時を持っています。

学期中少なくとも2,3回は地域教会で奉仕をし、現地の牧師や教会員との交わりを持つようにしています。将来はできればもっと地域教会に関わっていくことが私達の祈りと願いです。

世界宣教地図

(定価一枚¥200.-)

皆さまの教会では、掲示板に「JOMA世界宣教地図」が掲載されていますか。もし「JOMA世界宣教地図」が掲げてなかったら最新版を買い求めて、掲示板に「JOMA世界宣教地図」をどうぞ。是非とも世界宣教のために「祈りの手を！」。

JOMA 総会

日 時：2002年4月8日（月）
 場 所：御茶ノ水 OCC ビル 4F
 セミナー：「宣教師の心のケア」
 講 師：ライフ・プランニング・センター
 研究教育部長、丸屋真也師（臨床
 心理学博士）



小礼拝：

報 告：各団体の活動報告・B5一枚に纏められた別紙報告に基づいて。

議 事：

1. 役員改選—OMF と AOG に代わって、日本ホーリネス、聖書同盟が役員担当団体となり、4つの団体から送られた役員間で、別記のように役割担当が決定された。
2. 2001 年度事業及び会計報告
 - ・昨年度の OM ジャパンと COG の新規加盟が報告された。
 - ・旧保守パプテスト (CB・JAPAN) の退会願いが審議された。
 - ・世界宣教 HB の増補改訂版の発行 (1000 冊) が報告され、その販売価格を定めた。
 - ・What's MK 会合のこと。
3. 2002 年度事業案・予算案の承認
 - ・「JOMA 通信」の発行
 - ・「JOMA 世界宣教地図」の更新

発行

- ・予算案の承認の折に、会費額削減のことが議され、本件の検は役員会に委託された。
4. JEA 世界宣教委員会の提唱による 2003 年の「世界宣教青年大会」開催の件に関して、JEA の新しい総主事・具志堅師、世界宣教青年大会書記・井上師による説明がなされた (P6 参照のこと)。
 5. 事務局の平位全一師が、今次総会を機に、事務局の働きから退くことが承認された。

2002 年度 JOMA 役員

- ・会 長：飯塚 俊雄（日本イエス）
- ・副会長：渡辺 正人（東洋ローア）
- ・書 記：郷家一二三（ホーリネス）
- ・会 計：小山田 格（聖書 同盟）

付記：

新しく増補改訂されて発行された「JOMA 世界宣教ハンドブック」の購入予約が訴えられ、以下のような注文数となった。



- | | |
|-----------|-------|
| ・ 日本ホーリネス | 200 冊 |
| ・ 東洋ローア | 100 |
| ・ AOG | 100 |
| ・ IGM | 100 |
| ・ 日本イエス | 100 |
| ・ OM | 50 |
| ・ OMF | 50 |
| ・ 日本ウイクリフ | 80 |

・ LMI	50
・ MB	36
・ アンテオケ宣教会	30
・ 兄弟団	20
・ COG	20
・ 南米宣教会	20
合計	956冊

定価は、¥800/冊、但し、販売キャンペーン期間中（6月末迄）は、¥700/冊
そして、100冊以上の注文に対しては、
¥600/冊とする（但し、送料は注文者の負担で）。

事務局は、平位全一師が退き、坂庭裕子姉（本郷台キリスト教会）が今後とも担当しますのでよろしく。



JOMA 世界宣教ハンドブック

－ 翔！ 世界へ －

序章(特) 聖書を根拠とする宣教

(監) 日本の教会と世界宣教

第1章 どのような準備が必要か

第2章 現実の奉仕における諸問題

第3章 長期的な奉仕のために

第4章 学ぶべき参考書と参考図書

・ JOMA25周年宣教大会講演 (特)、(監)

(ご注文は、JOMA事務局・坂庭へ)

世界宣教青年大会

2003 SSST 青山

開催日程：2003年

8月12日(火)―15日(金)

大会会場：青山学院講堂

東京都渋谷区渋谷4-4-25

大会テーマ：「SEND ME/ センド・ミー」

イザヤ6:8

大会目的：21世紀の宣教を切り開くクリスチャン青年が、福音の豊かさを知り、世界宣教の現状とみことばから宣教のビジョンを頂き、主からのチャレンジを受け止め、地域教会に仕え、世界宣教の担い手となること。

大会目標としてあげられている事柄：

- ・ 次代を担う献身者がおこされる
- ・ リーダーシップの継承と育成
- ・ 出席者が地域教会を活性化する
- ・ 牧師の覚醒
- ・ 同世代クリスチャンの交わりを築く
- ・ 福音の普遍的な力を知り、教会の国際性を体験する
- ・ キリスト教界の中での青年の役割の強化
- ・ 青年宣教会議の実現
- ・ 宣教の方策、方向付け
- ・ 社会の中で福音に生きる
- ・ 世界/社会における青年の役割を知る
- ・ 聖書信仰の再認識

大会 HP：

<http://www.linkclub.or.jp/~jea/world>

発行：海外宣教連絡協力会

発行者：飯塚 俊雄

住所：244-0842

横浜市栄区飯島町2441-10

Tel.045-891-7769

Fax.045-894-2121

e-mail hongodaioffice@yahoo.co.jp

郵便振替：海外宣教連絡協力会

00160-7-106631